

4

Traditional Crafts

伝統と職人の技。



細かい刺繍や織りで描かれる柄やグラフィック。独特な染色による色合い。世界各地に、その土地ならではの文化が育んだ工芸品のような服があります。

今回はインドとアフリカで、そういった伝統を受け継ぐ人たちを見つけ、彼らの着こなしをスナップし、その魅力を紐解いてみました。

STYLE SAMPLE 2024

illustration: Borja Bonaque



■ LTTT (Little Tokyo Table Tennis)

2021年に日系アメリカ人のジロウ・マエストゥイが立ち上げた卓球コミュニティ。コロナ禍の中でもさることなくなり、何かのくじ引きで当たった卓球台が10年近くずっと家にあって、卓球を始めたのが発足のきっかけ。毎週火曜日の18時から21時に自由参加形のプレーしていく。現在は2022年に開館した「寺崎武道館」で開催中。ブランドとしてアパレルを展開し、昨年12月にはリトルトーキョー内に旗艦店をオープンした。@littletokyotabletennis



LA TABLE TENNIS

リトルトーキョーで卓球。

アメリカ最大の日本人街で卓球とファッショングが結びつき、今、LAの若者たちが毎週アツくピンポンしてるので。その首謀者、(LTTT)が主宰するコミュニティに潜入！



Zoe Blue 20

Artist

Jacket : LTTT
Pants : Danbi
Cap : LTTT
Necklace : Tiffany
Earring : Tiffany

「家の兄のジロウと友人がいつも卓球してて、私はボールの音で起きてた(笑)」という画家のゾイ。すっかりハマって、実はコリアタウンでも“コソ練”中。今日はセントラル・セント・マーチンズ卒の韓国系アメリカ人による(タンビ)や、母からのお下がりのアクセサリーなど、身近な人が関わった服で。ラケットは(ミズノ)。



Jiro Maestu 31

『LTTT』 Founder, 『POCHE』(squeEgEE) Designer

T-Shirt : LTTT
Pants : LTTT
Shoes : Mizuno
Bandana : Cumii

アーティストでもあり、(ボシ)名義で芸術的な帽子を作ってきたファウンダーのジロウ。彼のまわりのクリエイターたちからLAで卓球の輪が広がったのである。「毎週火曜日は汗だくさ。速乾性のあるトップスは必須で、パンツは(LTTT)か昔の(ミズノ)、シューズは絶対(ミズノ)、そして頭にはキャップかバンダナ、というのが僕のスタイル」

Kendal Good 22

『Due-Date Studios』 Staff

Shirt : used
Pants : used (RRL)
Shoes : Adidas
Necklace : Tiffany
Bracelet : Tiffany

パンクやヒップホップのヴィンテージTリメイクするデニムがいい感じの古着屋『Due-Date Studios』で働くケンダル。仕事終わりにそのまま服装で、ほぼ毎週参加しているそう。「このパンツはシリバレイクのリマード見つけて、ウエストが40だったのを自分のサイズに直してる。リサイクルショップで見つけたカウボーイブーツでプレーしちゃうよ」

R Kylie Fung 19

Student

T-Shirt : Adidas x Wales Bonner
Pants : used (Lee)
Shoes : Adidas
Necklace : Tiffany
Bracelet : Tiffany

「僕のベストフレンド」とアジョリンが紹介してくれたファッショニマーチャンダイズを大学で專攻しているカイリー。終了時間ギリギリまで2人は白熱していた。「でもプレーをしない人もいるよ。ここでは友人たちと過ごす時間が最高なので、この日のお気に入りは、お母さんにももらった(ティファニー)のネックレスだ」



photo: Yusei Kanda coordination: Kakeru Otsuka





Sukhchain Sohal 29

(JahoS) Designer

Jacket : Kartik Research
Sweater : used
Pants : JahoS
Shoes : G.H.Bass
Rings : used

Manutsav Sorot 28

(Sorot07) Designer

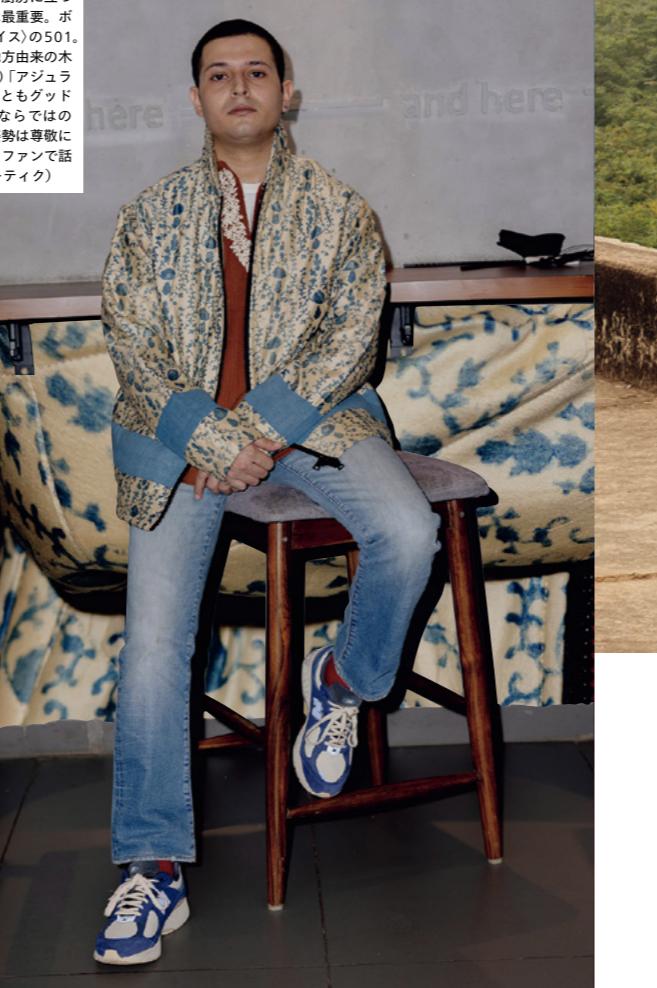
Puffer Jacket : Sorot07
Jacket : Kartik Research
Pants : Sorot07

Kunal Singh Dogra 27

Chef

Jacket : Kartik Research
Shirt : Kartik Research
T-Shirt : Uniqlo
Pants : Levi's
Shoes : New Balance

ラーメン店の店主として厨房に立つクナールにとって着心地は最重要。ボトムはほぼ毎日(リバイス)の501。パキスタンのシンドゥ地方由来の木版更紗(紋様を染めた布)「アジュラック染め」のジャケットともダッドマッチだ。「若きシェフならではの美学を頑なに追求する姿勢は尊敬に値する。大のスニーカーファンで話も盛り上がるんだ」(カーティク)



Nishanth Radhakrishnan 32

Photographer

Jacket : Kartik Research
Shirt : Kartik Research
Pants : Uniqlo
Shoes : Adidas x Wales Bonner「Samba」
Cap : Colbo

柔らかな無染色の手織りウールジャケットがパッとしたデニムスタイルにマッチしていたニシャンス。「刺繡はインド西部・カルナータカ州に伝わるカステイ」と呼ばれる技法。足元が「アディダス」と「Wales Bonner」のコラボスニーカーってのも洗練されてるね(カーティク)。インドのABCマートごと「VegNonVeg」でゲットしたそな。



Ruchika Sachdeva 35

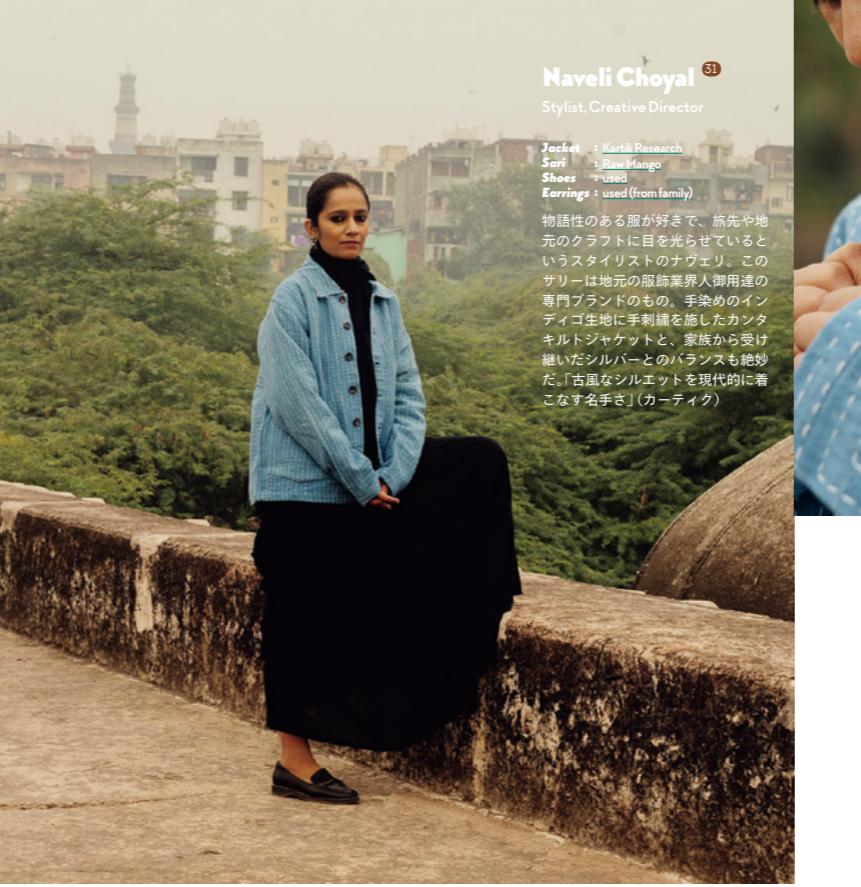
Creative Director

Jacket : Kartik Research
Pants : Bodice Studio
Shoes : Crece

「服は多面性を表す手段。人がどう思おうと自分が納得できればいい」と哲學を語るルチカ。織物の街・ジョディー産のシルクウールジャケットにフリースパンツ。中のTシャツはデニムをアップサイクルする「Rkive City」とデリープラント尽くし。「気鋭のデザイナーによる、ミニマルに解釈されたインディアンスタイルが粹だね」(カーティク)



POPEYE 922 — 2024 FEBRUARY



Naveli Choyal 31

Stylist, Creative Director

Jacket : Kartik Research
Sari : Raw Mango
Shoes : used
Earrings : used (from 31)

物語のある服が好きで、旅先や地元のクラフトに目を光せているというスタイリストのナヴェリ。このセリーは地元の服飾業界人御用達の専門ブランドのもの。手染めのインディゴ生地に手刺繡を施したカンタギルトジャケットと、家族から受け継いだシルバーとのバランスも絶妙だ。「古風なシルエットを現代的に着こなす名手さ」(カーティク)



New Delhi

EMBROIDERY OF INDIA

手仕事の刺繡を纏うニューデリーの人々

伝統的な刺繡や染色の工房が数多く残るインドで、職人技から新しいスタイルを作る〈Kartik Research〉。仲間たちによる、手仕事感溢れる着こなしを見てみよう。



Kartik Kumra 22

(Kartik Research) Creative Director

Jacket : Kartik Research
T-Shirt : Jekka
Pants : Kartik Research
Shoes : Roa
Necklace : Santangelo

ワイドレッグのコットンパンツに合わせたのはヒマラヤ山脈の靴、ヒマチャルプラデーシュ州産の手編みウールジャケット。ムガルと呼ばれる板画モチーフを再現した手刺繡入り。古着も大好きでこのTシャツはロンドンで。「今興味があるのはインドのサファルチャ。特に70年代にビートルズが訪れた後のサイケデリック文化に興味津々なんだ」

インドの服といえばサリーのような民族衣装が思い浮かぶけど、この国の服飾文化は僕らが想像するよりずっと奥深い。例えば刺繡の発祥の地はインドだといわれていて、その起源は仏像や浄土図などの仏教の主題を針と糸で表現した古代の繡佛^{レフ}だとか。だから今でも刺繡や染色などの工房が多いし、近年は手仕事にこだわる若手ブランドも世界的に注目されている。筆頭は昨年LVMHブライズに選出されたカーティク・クマラ率いるカーティク・リサーチ。国内各地の職人と協働し、カンタと呼ばれる刺し子の技術で古布をアップサイクルし、古くから

伝わる手刺繡を施す。染料は天然のもの、布作りには電動の機械を使わないという徹底ぶり。「この国の若者のスタイルは長らくファストファッションとハイブランドの二択だったんだけど、ネットのおかげで昔のリソースにアクセスしやすくなってしまったが変わってきた。誇るべき文化遺産を現代の日常に再び持ち込もうつて機運が高まっているね」とカーティク。それに「古布再生は日本の櫻の精神にも通じる『なんて言わると一気に親近感が湧く』というもの。本拠地ニユーデリーに集まつた仲間たちの着こなしから、伝統的な文化との向き合い方を学ぼう」



Kartik Research

2020年ペンシルベニア大学で経済学を専攻中だったカーティクによりローンチ。2023年LVMHブライズのセミファイナリストに選出。2023年、ブランド名を(Karu Research)から(カーティク・リサーチ)に改めた。

Shirt : Kartik Research
Vest : Kartik Research
Pants : Celine
Shoes : Dr. Martens
Jewelry : used (family heirloom)

スターリックなペトロのモチーフは中央アジア由来のカーボルドーと呼ばれる金属刺繡。花柄の手刺繡のシャツとの合わせに印「ウォーグ」のエディター、メガの感性が光る。「流行追従はもううんざり。死ぬまで使いたいモノしか興味がないわ」という彼女の審美眼にカーティクも信頼を寄せているぞ! サロジニガーマー・ケットは握り出し物が多いって。

真冬だからだろうか? アフリカの有機的な柄が気になつて仕方がない。例えばナイジェリア、ラゴスのレツキ地区を拠点とする〈エミー・カスピット〉。ナイジニア東南部のコミュニティ由来の伝統的なテキスタイルデザイン。ウカラのシャツに、少数民族イボ族に伝わる装飾アクウェテのミニスカート。ナイジニア東部アビア州の女性たちによる手織りのもの。地元の職人技の継承こそが「エマニユエル」と友人たちが集合したことで、美しい色と柄をのせた布をまつたエマニユエルと友人たちが集合!



EMMY KASBIT

ナイジェリア・アビア州出身のエマニユエル・オコロにより2014年に創設。地元の財団と協働しプロダクションを行う一方、女性の就労支援のため「エミー・カスピット・インシアチブ」を創設。@emmykasbit

Lagos TEXTILES OF NIGERIA

近年ヨーロッパのモード界も注目しているというナイジェリアのファッションシーンの重要なブランド。〈エミー・カスピット〉が案内する伝統的織物の世界。

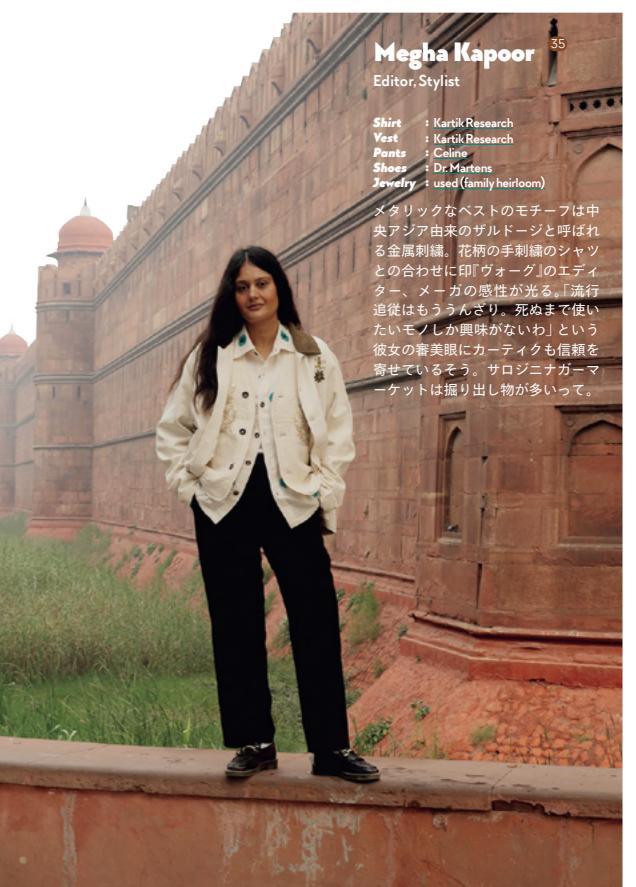


Raihan Vadra

Visual Artist

Jacket : Kartik Research
T-Shirt : no brand
Pants : Kartik Research
Shoes : Converse
Cap : used

天然染料のブロックプリントジャケットと、マハーラーシュトラ州の工房でゴダティと呼ばれるバッチワーク技法で作ったパンツ。有機的な色柄を難なく自分のものにしていたライハンはカーティクのフトボール仲間。「彼は野生動物写真から着想を得るブランドのデザイナーでもあるんだ。そしてトップナム・ホットスパーのビッグファンでもね」



Chuchu Ojekwe

Photographer

Top : Emmy Kasbit
Pants : Emmy Kasbit
Shoes : Kingdroids
Cap : LA Dodgers

Orire Omatsola
(Ré Lagos) Designer

Photographer

Shirt : Ré Lagos
Skirt : Ré Lagos
Shoes : Dakar

Emmanuel Okoro
(Emmy Kasbit) Designer

Photographer

Shirt : Emmy Kasbit
Pants : Man Cave Workwear
Shoes : Zara

Daniel Olurin
(Emmy Kasbit) Designer

Entrepreneur

Akwete Jacket : Emmy Kasbit
Pants : Emmy Kasbit
Shoes : Dida Official
Eyewear : used
Necklace : Dida Official

Eniafe
Influencer

Influencer

Top : Emmy Kasbit
Pants : 14ZeroSeven
Shoes : Klerélé

ストライプ×幾何学柄のド派手なトップはリバティのスタイル。そこにあえてドジャースキャップと、ナイジェリアブランドのカジュアルなスリッポンで、こなれた感じに外すのが「アフリカンシッシュ」と吉田の「両立」を目指す写真家のショット流だ。(Emmy Kasbit)のビジュアル撮影を担当していく、エマニユエルの「ベストバイ」などとか。

「着心地は大前提だけれど、おしゃれはカラフルで楽しくなきゃ!」。紅一点、デザイナーのオリが持っているのは、ダニエルと同じアクウェテ織のスカート。メタリックな色味と、ウエストの柄合わせが凝ってるよね。自分がデザインしたトップとフラッシュ、頭に巻いたベアリーツ、足元は(ドクターマーチン)の14613ホールシューズで「アフリカンシッシュ」のお手本!

エマニユエルのビジネスパートナーである実業家のダニエルは、流行を追わないクラシックなスタイルが好み。ナイジェリア東南部アビア州の少数民族・イボ族の女性たちにより伝統的に作られる装飾織物アクウェテのカフタンだ。彼は自分のコミニティ出身なんだ。彼はアビア州のスタイルアイコン。ボトムスはナイジェリアブランド。ロンドンで買ったヴィンテージのサンダルは手仕事にこだわるラゴスの靴ブランドのもの。

Upam Dudhe

(Kartik Research) Designer

Jacket : Kartik Research
Shirt : hand-made
Pants : used (Oscar de la Renta)
Shoes : used

カーティク・リサーチのデザインチームで働くウバムはインドの職人技の奥と自認する。天然染めのカンタ刺繡ジャケットは自身が手掛けた最初のビーストで、シャツは学生時代職人と作ったアジュラックプリント。思い出の一着を古着の〈Oscar de la Renta〉に合わせた。「ヴィンテージとクラフト感のある服を合わせる名手だね」(カーティク)



Chiinlun Tombing

(Kartik Research)

Production Manager

Jacket : used (Dries Van Noten)
T-shirt : Uniqlo
Skirt : hand-made
Shoes : used

インド東部・マニブル州の伝統的な手編りラップスカートがときわ目立っていたチヌラン。「現地のHmar族に伝わるデザインよ。私の母がコミニティ出身なので」と誇らしげに微笑む。彼女はデリーの古着マスター。家族から受け継いだビーストを、〈ドリス ヴァン ノッテン〉のタブルプレステッドジャケットに合わせるあたりがクール! (カーティク)

Atul Kumar

(Kartik Research) Office Manager

Jacket : used (L.Bean)
T-shirt : Uniqlo
Pants : Kartik Research
Shoes : Asics x Kilo Kostadinov

カーティク・リサーチの業務担当アトウル。「半年前の入社以来仕事への愛が深まっているね」とボスであるカーティクは分析する。パンツは從業員ユニフォームで手織りのヘンボーンコットン素材。はき心地抜群だしワーカーの上着にもしっかり!(アシックス)とKilo Kostadinovのコラボスニーカーはカーティクの私物。って仲良し!